

令和5年度学校自己評価システムシート (県立伊奈学園総合高等学校) s26

目指す学校像	生徒一人一人の個性と資質・能力を伸ばし、切磋琢磨する中で高い志を持って希望をかなえる生徒を育成する学校
--------	---

重点目標	1 主体的に将来を考えさせる進路指導と、学習意欲を高めるよう工夫された授業を展開する。 2 保護者・地域・卒業生との連携を通じた教育活動の積極的な情報発信を推進する。 3 安心して通える安全な学校の中で、学習と部活動等の両立の実践を通じた充実した学校生活を実現させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>○ 進学校として生徒の希望進路実現の割合を増やしていくためには、3年間を見通した進路指導計画をより明確にするとともに、大学入試を見据えた計画的な授業展開や進学講習及び進路ガイダンスの充実と計画的な実施が必要である。また、キャリア教育の観点から、進学後の自身の生き方を主体的に創造できる自己教育力を身に付けさせることが必要である。</p> <p>○ 大学入試改革、新学習指導要領への対応のために、より一層の授業改善・指導力向上に取り組み、生徒の資質能力向上を図る必要がある。さらに、生徒に、より高い目標を持たせるための授業と進路指導の質的向上が必要である。</p>	<p>○ 生徒の進路実現のための組織的な取組を実施する。</p> <p>○ 授業改善と指導力向上により、生徒の学習意欲を向上させる。</p>	<p>① 各教員は、生徒の進路実現のための目標と方策を自己評価シートに明記する。</p> <p>② 進路指導計画に基づいて、担任や年次から個々の進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。</p> <p>③ 難関大学入試にも対応した各種進学講習体制を充実させる。</p> <p>④ 年4回の見直し共有会等での最新情報の共有、教員の意思疎通と理解を深め、指導に生かす。</p> <p>⑤ 各教員は、授業改善及び生徒の意欲喚起に連鎖する目標と方策を自己評価シートに明記する。</p> <p>⑥ ICTを効果的に活用した授業展開を進める。</p> <p>⑦ 科目選択ハンドブックを用いて連携した指導を行う。</p>	<p>① 当該教員の自己評価が高まったか。</p> <p>② アンケート等で進路指導に関する満足度が前年度より向上したか。</p> <p>③ 講習参加者の状況は、前年度より向上したか。</p> <p>①②③ 生徒の進路希望が90%以上実現できたか。</p> <p>④ 研修会等で適時に正確な情報提供が図れたか。</p> <p>⑤ 各教員の自己評価が高まったか。</p> <p>⑥ ICTを活用した授業の質的向上があったか。</p> <p>⑦ 生徒の科目選択満足度は80%以上になったか。</p>			
2	<p>○ 学校説明会による生徒募集活動およびPTA・同窓会活動等による広報活動を通じて、本校の特色ある教育活動や成果を、様々な手段を使って発信していくことが必要である。</p> <p>○ ポストコロナにおいて、学校行事を充実させるための工夫が必要である。</p>	<p>○ 本校の特色や活動の成果などの積極的な情報の発信をする。</p> <p>○ 学校行事を充実させる。</p>	<p>① ホームページで動画配信を積極的に行い本校の特色や活動の様子をより理解しやすくする。</p> <p>② ホームページ、PTAや同窓会の広報誌等を通じて、学校の最新情報の発信を充実させる。</p> <p>③ 生徒一人一人が伊奈学生としての自覚と責任を持ち、年次やハウスを越えて自主的・主体的に行動でき、行事がより盛んになるよう指導する。</p> <p>④ 母校訪問や説明会、部活動体験を充実させる。</p>	<p>① ホームページでの動画配信を行うなど工夫できたか。</p> <p>② PTA、同窓会と連携して広報活動ができたか。</p> <p>③ 学校行事を臨機応変に対応できたか。また、生徒会活動を通して活発な意見交換がなされ、経験や伝統の継承ができたか。</p> <p>④ 中学生、保護者は、本校の理解が深まったか。</p>			
3	<p>○ 学習と両立しながら、複数の部活動が関東大会や全国大会で優秀な成績を収めている。引き続き、部活動方針や県のガイドラインを踏まえ、学習活動との両立、各活動の充実を図ることが課題である。</p> <p>○ 生徒の規範意識は高いが、自転車事故等もあり、交通事故防止や交通ルールやマナー指導が必要である。</p>	<p>○ 部活動等の効率的な活動と充実により、学習と部活動等の両立に主体的に取り組ませ、学習習慣を確立させる。</p> <p>○ 職員が一丸となり、様々な事故防止への取組を強化し、規範意識、安全に対する意識を高める。</p>	<p>① 各部活動等の顧問は、育成すべき資質・能力を自己評価シートに明記する。</p> <p>② 「D○活」を軸とした学習活動(週末の課題、読書活動など含む)に学校全体で取り組み、指導する。</p> <p>③ 全教員の共通理解のもと、ホームルームや集会等を通じて丁寧な指導を行うとともに、生徒自身でマナーを考え行動できるように指導する。</p>	<p>① 当該教員の自己評価が高まったか。加えて、生徒の部活動に対する満足度は向上したか。</p> <p>② 生活実態調査で「平日・休日の平均勉強時間の増加」「勉強・部活動の両立ができた」と回答した生徒が前年度より増加したか。</p> <p>③ 前年度より生徒の事故件数、苦情件数が減少したか。</p> <p>④ ヘルメット着用が普及したか。</p>			

学 校 関 係 者 評 価			
実施日	令和	年	月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等			